

教材には見られない多くの特色を見出すことができる。新教科書は言語経験を豊富にするため編集されたのであるが、読みかた学習の資料としての性質も兼ねていなければならなかった。学習指導要領によると、第一、二、三学年においては、「読みの材料は童話・童詩・感想・記録・子どもしばいの類であるが、いずれもそはくなく身近かな材料によって、しだいに多面的な表現と生活とを会得させ」て、「これらについてしだいに読書の理解をふかめていく」ようなものを選ばねばならないとし、また、第四、五、六学年においては、「にできるだけ多くの読書の材料を与えて、広い読書活動を展開させなければならぬ」。児童の読書材料は、児童の興味をそそるものであり、それを読むことによつて、おのすからよい人間生活をつむことができるようなものでありたい。」とし、「読みかた学習資料をいくつか拾ひあげ」つぎのようなものを示している。①運動・競技に関するもの。②児童のための有名な文学作品。③児童を楽しませ、情感を豊かにするような神話・伝説。④美術・建築・音楽に関するもの。⑤文化の創造に寄与した人々の伝記およびその話。⑥宇宙の神秘。⑦自然の法則、生物の生態などの自然科学の原理に関するもの。

つは生活環境を科学的に観察したもの。以協同奉仕の精神を示したものの。以人類愛・國際平和・國際協調などの精神を啓発するもの。以國語に關するもの。——1國語のはたらき 2國語愛 3國語の本質 4日本語の成立 5外来語 6言語生活 以自由・平等・博愛・平和・正義・實容の思想の理解と發達を助けるもの。以眞・善・美に対する理解を与えるもの。以信仰心をやしなひ、ぎせい・責任の精神生活を表わした物語。以兒童の体験記」

當時の教科書として、これだけのものは含まれていると
とが好ましいとしている。さらに、「兒童の読書の材料は、
このように範圍にわたるものであるが、これを表現の模
式のうえからわけ」て、詩情表現のむれ。(童謡・童詩・抒情
詩・叙事詩・和歌・俳句など) 以思案・記錄のむれ。(手紙・日記・
記錄・報告・論文・隨筆など) 以物語のむれ。(童話・く話・伝説・
伝記・小説など) 以演劇一般のむれ。(脚本・シナリオ・ひきかけ・群
劇・團曲・狂言など) といふように分類されている。なお、
學習指導要領には、「國語教科書にかかげている各教材は、
こゝとした意味の材料を集めて一つの基準を示したものと考
えてよい」とのべている。すなわち、新教科書は、四つの
むれ、および、その根元としての言語教材を配置し、その

つたといふよう。なお、第六期国定国語教科書にいたる文
学的色彩が強いのは、第四期、第五期国定国語教科書の影
響と思われる。

第六期国定国語教科書は、言語を真の「リソース」、
「リソース」に「リソース」を「リソース」する、文章が平易化
されている。第一期国定国語教科書以後、文語文はしだい
に減少の傾向にあった。そのため、第四期国定国語教科書
以後は、文語文は、ほとんど、歴史的教材、古典教材に限
られていた。すなわち、文語体をもって時代的感覚、ある
いは古典の持つ格調を表現していた。しかし、新しい時代
思想を反映させる新教科書では、歴史的教材、古典的教材
は減滅し、また、それらの教材も現代化、児童化がなされ
ているため、その表現も口語体によつてなされている。ま
た、従来の国語教育では、朗誦が重視され、美文調のもの
が多かつたが、教育の生活化をはかる新教科書では、平易
な表現がとられている。この特色は讀文教材についても見
られ、従来の国語教科書に多く見られた七五調、五七調と
いつた定型詩が少なくなり、口語による自由詩が多くなつ
ている。

さらに、新教科書では、児童の表現による教材が多くな

国語教科書

学鑑的なものが多いが、戦後の教育では、知識注入的なもの、文
字鑑的なものが多いが、戦後の教育では、知識注入的なもの、文
字より取材したもの、または、児童作文の形をとる教材
が多くなった。従来の説本に比べ、自由詩が多くなったの
も、児童の自己表現としてのことが重んじられたため
である。なお、児童の表現による教材は文学的なものばかり
でなく、実用的なもの、研究的なものにもおよび、手紙・
日記・記録・報告・随筆などの広範囲にわたっている。演
劇のむねの多くが、児童劇の形で提出されているのも、こ
うした理由にもとづくのである。

なお、文章表現が会話形式によってなされているのは、
戦後における会話教育重視の結果である。演劇一般のむね
は、会話のための実例を示したものであるといつてよく、その他
のむねにおいても、話す形式をとっているものがある。た
とえば、「二百金次第」(五年中)のような歴史的なもので、
「これから私の調べた二百金次第のことをお話しします。」と
発表形式をとっている。

新教科書は、現代生活に必要な種々の表現形式をとる
とによって、言語教育を豊富ならしめているが、その一つ



より、戦前、戦時の教材を大幅に改め、新しい教材をとり
入れねばならなかった。そのためには、古今東西の作品よ
り現代社会に意義あるものを多く取材し、また、児童作
品、懸賞作品なども多く取り入れた。

また新教科書の一つの特色として、戦時中の国粹的な教
材に代つて、国際的なものが多くなっている。その中で、
「クリスマス」(くんと四)、「人形しばい」(五年下)、「外国か
らきたことば」(六年中)、「星の光」(同)、「めぐりあい」(六
年下)などは、国際精神を養う教材を代表している。特に、
外国の児童文学作品が、従来の古典作品に代つて、多く提
出されるようになった。

なお、新教科書においては、道徳教材は少なくなるが、
の中にあって、個人の自覚と、社会共同体への認識を漸
い、幸福と希望を与えるような教材が多くなっている。戦
前の説本とちがつて、戦後の国語教科書は言語学習の性格
を強くし、また戦後における社会思想の推移によつても一
層、道徳的教材が少なくなっている。その中にあって、戦
後急に発展してきた民主主義的思想で、個人の自覚と、社
会共同体への認識を高める教材が強調されている。「あな
たの思っていることとは」(五年上)、「いつも、全体の中

に、長文の教材の提出があげられる。長文教材は、物語教
材に多い。長い間、国語科は、語・句の教育が中心であ
つた。そのため、長文教材はあまり取りあげられず、物語教
材にしても、全体的に把握させるといふより、その中にあ
る語のよみ、句の解釈といった部分的把握に力が注がれた
ので、いきおい教材も短く、物語りの一部分を提出するも
のが多かった。しかし、現実の社会にあつては、豊かな知
識を得、広く情報を受けとめていくためには、長文を読み
こなす能力が要求されていたのである。特に、読書生活を
豊かにし、文学を通して人間形成をはかるためには、物語
りを全体的に把握せねばならないと強調されるようになって
たのである。そのため、「ここどこ」で二・三ページをもつ
て矢野龍彦原作「お月ちゃん」をとりあげたのをはじめ、
多くの長文教材が各学年の教材としてとりあげられた
のである。

以上のような表現形式をとる新教科書の内容の選択にあ
つては、「できるだけ、人間性に即することであり、社
会性を重んじること」を基本的心がまえとし、「広範囲に、
その分類は、児童、生徒の学習意欲に適することに根拠を
置いた。」のである。社会情勢の激変、国語教育観の推移に

部分、部分あつての全体、というつながりをわすれない
で、あいての人をうやまうとともに、自分のつとめをはた
すだけの勇気を、もちたいと考えます。」とあるが、こうし
た考え方が多くの教材にあらわれている。第三期国定国語
教科書の「小さなねじ」も、同じような見地からこの教科
書にも採用されている。特に戦後の混乱期にあつて、「心
に太陽を持って」(六年中)の詩に象徴されるように、希望と勇
気を与え、人間としての真の幸福を追求するような教材に
関心をよせている。そのため、かつて見ないほど多く「幸
福」ということばが教科書に現われている。「新しい出発」
(五年中)、「星の光」(六年中)、「まさに立つべし」(六年下)は、
ややもすれば希望を失いがちな戦後の児童に、新しい勇
気と生きる道を与えようとする意図から加えられた教材で
ある。

なお、戦後の国語教科書として、言語経験に反省を与え
る教材が多く見られる。第五期国定国語教科書でも、上級
学年になると、言語生活に反省を与える教材があつたが、
この期の教科書ではそれが多くなるばかりか、低学年にお
いても見られる。

昭和二十二年には既に教科書は検定とする方針が立てら

III 習字教科書

広め、社会性を養うことを考えているとともに、言語生活を豊富にしている。「うつろ」とびら「おはなしかい」「かみしばい」は遊戯性と文学性を考えて編集した教材であり、特に、「かみしばい」は、児童の空想に関するものであり、他の教材とともに、ロマン性と現実性との調和をはかるうとしている。

この入門教科書は、学習指導要領、検定基準に従いつつ、さらに新しい国語教育思潮を取り入れてつくられたものであり、民間の検定教科書の第一学年用国語教科書には、これにならうものが多かった。

(海援堂・木下政久)